

## 三田藩主の菩提寺心月院

白洲家の墓所として各地からのお参りが絶えない心月院ですが、同寺はよく知られる通り三田藩主九鬼氏の菩提寺と位置づけられています。所在する西山の地にはもともと前代の大名である有馬氏が建立した梅林寺という前身の寺院があったとされますが、直接には九鬼氏が鳥羽から三田に移るにあたって、鳥羽の菩提寺である常安寺から僧侶を招いてひらかれた寺院です。心月院の寺号は、鳥羽時代最後の城主である九鬼守隆もりたかの法名(戒名)松嶽院殿心月善光大居士しょうがくいんでんしんげつぜんこうだいこじにちなんでいます。市史第4巻近世資料30号資料にある通り、守隆は九鬼氏が三田に移されるよりも前の寛永9(1633)年に没しています。江戸で没した守隆はまず常安寺に葬られますが、三田での初代となる久隆によって当地に改葬されました。これが実質的な心月院のはじまりです。

ところで常安寺や心月院のほかにも三田藩主ゆかりのお寺がありました。ひとつは明治39(1906)年に心月院に合併された桃禅院とうぜんいんです。三田御池おいけの南側、現在の西山一丁目の御池南公園付近がその跡地です。寺号は守隆の実子で初代久隆の義兄にあたる良隆の法名にちなんでいます。病身のために実質的に家督を継がなかったとされる良隆は三田に移転後に亡くなりましたので、その追悼のために開かれた寺院とも考えられます。

もうひとつが江戸におかれた菩提寺の泰宗寺たいそうじです。鳥羽城主であった守隆によって江戸茅場町かやばちょう(現在の東京日本橋付近)にひらかれた寺院ですが、二度の移転をへて現在は豊島区駒込としまくこまごめに所在しています。三田藩第5代の隆久以降の藩主は、基本的にこの泰宗寺に葬られました。現在心月院本堂右手の位牌堂の南側には、守隆以降歴代の墓所があります。墓石の多くは六甲山系で産出する御影石(花こう岩)ですが、中には伊豆半島で産出する黒っぽい色調の伊豆石とよばれる石材も見受けられ、江戸で調達されたものと考えられます。参詣かたがた海から山へと移った三田藩主をめぐる歴史に思いを馳せてはいかがでしょうか。